

LIVING WITH THE SEASONS OF SHINSHU

Builder：Mstyle house ／エムスタイルハウス

四季を採り込む大開口・大空間のリビング。 “風景とともに暮らす”という贅沢

木造でありながら、鉄骨造に匹敵する強度と空間の自由度を叶えるSE構法。エムスタイルハウスが手掛ける住まいは、開放感あふれる大空間と安全性、快適性、どれをとっても妥協がありません。窓いっぱい広がる四季の風景と光にあふれた大空間が、日々の暮らしに深い癒しと豊かさをもたらします。



A

B

C
D

A・B_大窓を連ねた大開口と、吹き抜けの大空間が特徴の住まい。2階には、吹き抜けと天井がつながる屋根付きバルコニーを設けた。リビングから吹き抜けを見上げるとバルコニー越しに空が望め、開放感と自然との一体感を感じられる贅沢な空間だ。 C_広い開口のままリビングと中庭につながるコートハウス。外からの視線を気にすることなく全開放でき、落ち着いて過ごせる。 D_眺望を楽しむ高台の家。とりわけ素晴らしい北側の眺めを生かすため、「北向きの大開口」という課題を、断熱・気密性能と設計工夫によってクリアした。

大空間も、快適さも妥協しない。

木造住宅に、自由と強さを

エムスタイルハウスの採用している「SE構法」は、木造ながら重量鉄骨造並みの強度をもつ耐震性の高い建築工法。鉄骨造やRC造で使われるラーメン構造を木造に応用し、柱や梁を剛接合することで強固な躯体を構築。耐震等級3を確保しつつ自由で開放的な空間を実現します。柱と柱の間隔に制限がないので、壁や柱に遮られない大胆な空間設計が可能に。30畳を超える広々リビングや窓が連なる大開口、車3台が悠々並ぶビルトイン・

ガレージなど、従来の木造建築では成し得なかったダイナミックな建築が叶います。また、許容応力度計算による構造計算に加え、耐震シミュレーションも実施。繰り返し起きる大地震に遭っても、安心して住み続けられる性能を担保しています。省エネ性能にも徹底してこだわり、開口部にはトリプルサッシを採用。断熱材には、環境先進国ドイツの木質繊維断熱材「ECOボード」を推奨しています。ECOボードは断熱性能だけでなく、遮

熱性、蓄熱性、遮音性、透湿性にも優れた多機能素材。極寒の冬でも暖かく、酷暑の夏も上階が暑くなりにくいため、少ないエネルギーで家中を快適に保てます。将来にわたりメンテナンスがしやすい点も大きなメリットです。エムスタイルハウスが目指すのはデザインと性能、快適性のすべてを諦めない家づくり。安心・安全を担保しながら、それぞれの暮らしに寄り添った極上の癒し空間をカタチにします。

CASE 01

森に包まれた、開放感あふれるリゾートハウス

Place：軽井沢町



SE 構法が叶えた理想の邸宅。

光と季節が巡る、森の中の大空間



E	H	J
	I	K L
F G		

E_浅間山麓の静かな森に包まれた邸宅。カフェテラスを思わせる広いウッドデッキ。愛犬が目の前の芝庭を自由に駆け回る。 F_広々としたLDKでは家族や友人を招いてパーティをする機会も多いそう。 G_リビングには薪ストーブも。 H_2階ホールの一 corner はワークスペース。仕事の合間に目に入る景色に癒されるという。 I_寝室も大窓から四季の移ろいを楽しめる空間に。 J_景観と1つになれる約30畳のLDK。ダイナミックな吹き抜け空間は、許容応力度計算による構造計算のもと実現している。 K_どこからでも緑が眺められる設計。鉄骨階段の手摺りを強化ガラスとし、抜け感は抜群。 L_水周りはホテルライクなつくり。すぐ隣にはランドリーも。

旅先で見た美しい雪景色が忘れられず、海に見える街から軽井沢に住まいを移したUさんご一家。30畳の吹き抜けリビングは、放射状に視界が広がる圧巻の空間で、室内にしながら森の四季をすぐそこに感じることができます。明るく開放的な大空間は、奥様からの譲れないリクエスト。耐震等級3の基準を満たしながら、希望の大空間

リビングを実現しました。友人が集うことを想定したパブリックゾーンとホテルライクなプライベートゾーンを明確に分けることで、気兼ねなく人を招ける住まいに。「ホームパーティを開くときには主にLDKで過ごしますが、大人数のときや天気の良い日はテラスエリアも開放し、思い思いの場所で過ごしてもらうことが多いですね」

現在は、仕事の大半をリモートワークでこなしているご主人。「ワークスペースの窓から見える景色や時々遊びにくる鳥やリスが癒してくれるので、長時間の作業も苦になりません。中庭のカエデの紅葉や枝に下がるつららをガラス越しに見る度に、『大きな窓にしてよかった』と思いますね。季節の変化を間近で感じられるところが気に入っています」

CASE 02

森に佇む、ワインを愉しむ空間

Place：南牧村／ワインサロン



M_土地の高低差を生かした、森の中の平屋。リビングの先にはストーンデッキをつなげて、より開放的に。 N_敷地は、三方を森に囲まれた傾斜地。道路のある南側にも森が見える。 O_リビングは三方が窓。森に包まれる感覚を存分に味わえる。 P_サニタリーは、シャワールームと一体。一面ガラス張りて、森の景色が望める。 Q_玄関扉を開けると、ホール正面の窓越しに美しい森が広がる。 R_寝室にもあえて大きな窓を配し、自然を取り込む。 S_ゲストをもてなすワインサロンは、風景も味わいの一部。 T_高基礎を利用して床下にワインセラーを設けた。造成時に伐採した木は薪として利用。



どこを向いても森の景色！

ガラス張りの空間が叶えた感動の眺め

フランスと日本を行き来しながら、ワインの買い付けや醸造に関わる仕事をしているオーナーのIさん。東京のオフィスとは別に、「自然の中でワインの魅力を伝えられる場所が欲しい」と、標高1,500mの八ヶ岳の森に、別荘も兼ねたワインサロンを開きました。鳥のさえずりがシャワーのように降り注ぐ環境で、五感を研ぎ澄ませながらワインを堪能できる贅沢な空間です。

ワイン教室やテイスティング会といった集いの場となるLDKは、三面に大きな窓を配した光あふれる造り。天井高は3.5mあり、平屋ながらも吹き抜けのような開放感を味わえます。「山の自然と一体になれるような、光がたくさん入る空間にしたい」とIさん。視界を遮る柱がないので、空間の開放感が一層際立ちます。「大きな窓にして大正解。どこを向いても森の景色が見えるので、朝のコーヒーを飲んでいるときも、森林浴をしているような気分になれるんです。山の中にいる自然観を家の中でも感じられるところが魅力ですね。景色がよくて気持ちがいいので、ワインも進みます」

